

**製品名: p53 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM80732**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	43.7kDa

**抗原情報**

遺伝子名	p53
別名	LFS1, TRP53, TP53
遺伝子 ID	7157.0
SwissProt ID	P04637
免疫原	大腸菌で発現したヒト p53 の精製された組み換え断片。

**背景**

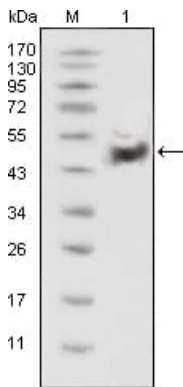
p53 は多様な細胞ストレスに反応し、細胞周期停止、アポトーシス、老化、DNA 修復、あるいは代謝変化を誘導する標的遺伝子を制御します。p53 タンパク質は正常細胞では低レベルで発現していますが、様々な形質転換細胞株では高レベルで発現しており、形質

転換や悪性腫瘍の形成に寄与すると考えられています。p53 は、転写活性化ドメイン、DNA 結合ドメイン、およびオリゴマー形成ドメインを含む DNA 結合タンパク質です。p53 結合部位に結合し、増殖や浸潤を阻害する下流遺伝子の発現を活性化することで、腫瘍抑制因子として機能すると考えられています。様々なヒト癌において高頻度に発現する p53 変異体は、コンセンサス DNA 結合部位に結合できず、腫瘍抑制活性を失ってしまいます。この遺伝子の変異は、ヒト悪性腫瘍における体細胞変異だけでなく、リ・フラウメニ症候群を有する癌発症しやすい家系における生殖細胞系列変異としても認められます。選択的プロモーターと多重選択的スプライシングに起因する複数の p53 バリエーションが発見されている。これらのバリエーションはそれぞれ異なるアイソフォームをコードしており、p53 の転写活性を制御することができる。

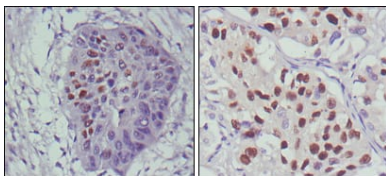
## 研究分野

アポトーシス、PI3K-Akt シグナル伝達経路、MAPK シグナル伝達経路

## 画像データ



HEK293 細胞溶解物に対する p53 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析(1)。



パラフィン包埋ヒト食道癌 (左) および肺癌 (右) の免疫組織化学分析。DAB 染色による p53 マウス mAb を使用して核局在を示しています。